

# 平成25年度 政務調査費 先進都市調査報告書

会派名	公明党室蘭市議会
議員名	砂田 尚子、細川 昭広、柏木 隆寿
調査実施年月日	平成25年5月8日(水)
調査先 自治体名等	兵庫県 神戸市
調査項目	「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」見学
調査目的	東日本大震災による大津波被害から2年2ヶ月が経過したが、いまだ復興が進まぬ状況において、1995年1月17日に発災した阪神・淡路大震災の規模や被害状況を様々な展示物や資料、映像、被災者の話などで後世に伝え 防災・減災への個々人の取り組みを啓蒙する施設を見学し、本市の防災・減災対策への一助とする。
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口:1,540,867人 (H25.4.1現在) 行政面積:552.83km<sup>2</sup></p> <p>2 視察内容</p> <p>阪神・淡路大震災から18年が経過し、町並みは見事に復興されていました。しかし施設内での展示物や映像、被災者の話などを見学した限りでは、当時の都市部での被害状況は東日本大震災以上のパニックが住民を襲ったと推察される。阪神・淡路大震災の被害は直下型地震の恐ろしさを地震国・日本に住む私たちに改めて自覚させた。震災追体験フロアでは大型映像と音響で当時の模様を体験し、震災の記憶フロアでは復興するまでの記録を写真や資料、被災体験ビデオなどで展示、防災・減災体験フロアでは今も世界中で起こっている地震、津波、大規模な山火事など自然災害を学習し、実験やゲームを通して防災・減災に関する実践的な知識を身につけることができる施設となっている。</p>
感想(まとめ) 本市へ活かせること等	震災追体験フロアでは大型映像と音響で当時の模様を体験したが地震破壊のすさまじさは東日本大震災の津波で全てが流される映像とは違った恐怖を感じた。小・中の修学旅行や見学旅行などでの見学が多数あり、駐車場はバスでいっぱいでした。本市の子供達にも是非、一度は見学してほしい施設と感じた。距離的にも費用的にも今以上の旅費になると予想されるが市独自の施策としての一部補助も考えられないのかと思った。また、東日本大震災の記録も「人と防災未来センター」のように被災地に記念施設を建設し後世にとどめおく事が未来の子供達への防災・減災対策になるのではないかと考える。東日本大震災から2年が経過したが被災地の復興は遅々として進んでいないように思える。あと16年経過したら、ここ阪神・淡路大震災の被災地のように復興できているのだろうかと考えさせられた。今回の見学を糧に本市の防災・減災対策を改めて見直し、安心・安全なまちづくりに貢献していくことを全員が決意した。